NO BOOK, NO LIFE!!

静岡県立浜松湖北高等学校図書館通信
R5 .7 VOL4

夏休み開始となりました！今年も読書感想文の課題があります。「本を読むのは好きだけれど、読書感想文を書くのには苦手意識がある。」そんな声に、図書館便りでお答えします。昨年は、湖北高校から5名の生徒の感想文が入賞しました。今年の課題図書や先生方のお薦め本は、感想文にチャレンジするべき図書が選ばれています。
なかなか手を付けるのが遅れがちな課題の一つですが、夏休み開始と同時に読書感想文に取り組んでみてください。

読書感想文Q&A

Q.「課題図書」「自由図書」ってなんですか？.

A.読書感想文コンクールの主催者が指定した本を読んで書くのが「課題読書」です。本の専門家の先生方が、新しく出版されたたくさんの本の中から、年齢に合わせて、多くの感動を得られたり新たな知識を得られたりする本をフィクション、ノンフィクション、外国作品など幅広く選んだものです。一方、自分で読みたい本を自由に選んで読書感想文を書くのが「自由読書」です。フィクションでも、ノンフィクションでもかまいません。

Q.本の本文や解説などを引用してもいいですか？.

A.できるだけ自分のことばを使って書くようにしましょう。確かに解説やあとがきなどは、本の世界をより深く解説するために参考になることがあります。ですから、場合によっては引用する必要が出てくるかもしれません。そのときには、どうしても必要な部分だけ「」（カッコ）でくくりましょう。

Q.感想文は、何のために書くのですか？.

A.書くことによって考えを深められるからです。読書感想文を書くことを通して思考の世界へ導かれ、筆者が言いたかったことに思いをめぐらせたり、わからなかったことを解決したりできるのです。「読書感想文」は考える読書ともいわれます。また、どんなに強く心を動かされても、時がたてばその記憶はうすれてしまいます。読書感想文は自分自身の記録です。読み返すことによって、いつでも「感動した自分」に出会うことができるの

Q.題名はどうつけたらいいですか？

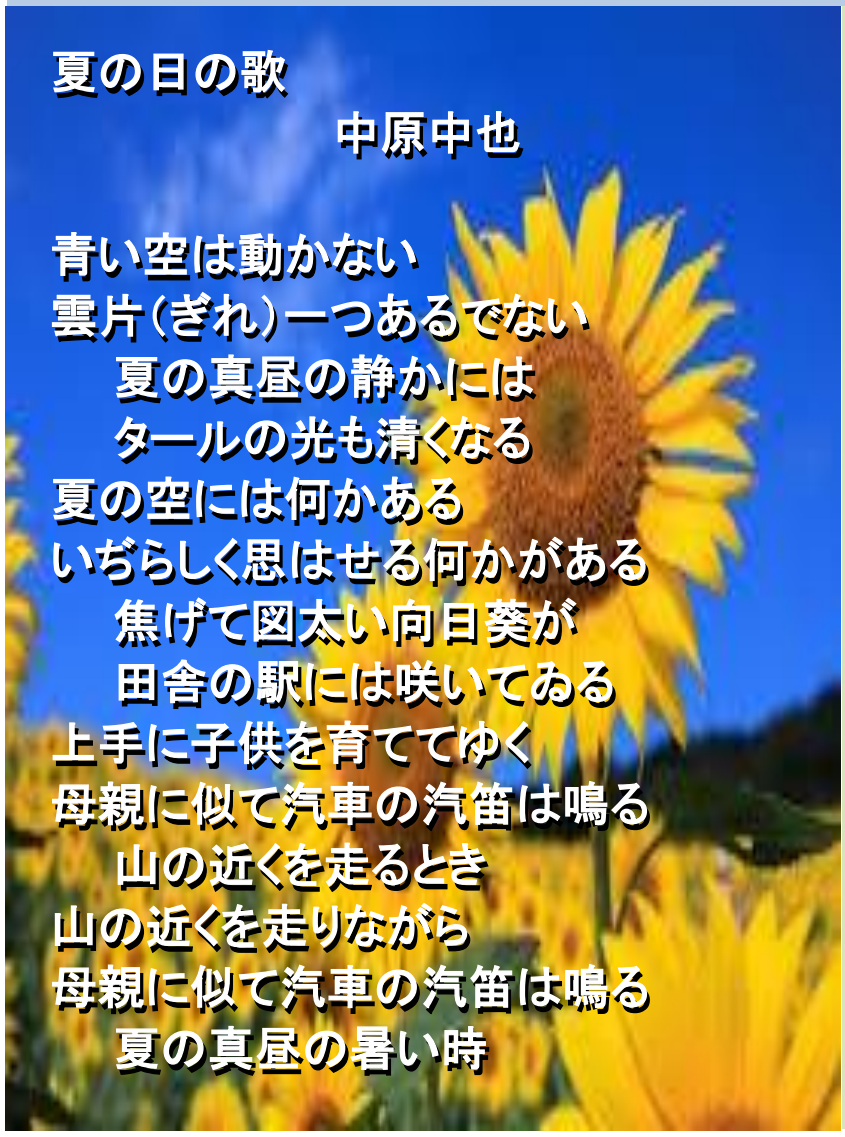
A.本を選ぶとき、本の題名を見ながら「おもしろいかな？」とか「読んでみようかな？」と考えることはありませんか？魅力的な題名は人を引き付ける力があります。せっかく書いた読書感想文ですから、人が読んでみたくなるような題名を考えましょう。自分が一番感動したことやもっとも言いたいことの、中心となることばを考えて題名にするといいでしょう。

Q.どんな本を読んだらいいのかわかりません；

A.思いっきり楽しめたり、自分を見つめなおしたり、新しいことを教えられたり・・・。自分の心を突き動かしてくれる本が、その人にとっての「良い本」だといえます。自分に合った、心を動かされる本を探してみましょう。迷ったら自分のことをよく知っている人、家族や、担任の先生、部活の先生、図書館司書に相談してみましょう。友達と話し合うのもいいですね。

Q.何をどう書けばいいのかわかりません；

A.本を読んで自分がどこに感動したのか、なぜ感動したのか考えてみましょう。そして、もう一度本を読んでみましょう。自分の生き方や経験と、本の世界とを照らし合わせると、いろいろなことが見えてきます。感じたこと、思ったこと、連想したことなどを忘れないうちにメモをとっておきましょう。そのメモを補ったり、順番を入れ替え、どう書いたら自分の心の動きにぴったりするか？それが人にうまく伝わるかを考えてみましょう。



夏の日の歌
中原中也

青い空は動かない
雲片（ぎれ）一つあるでない
　夏の真昼の静かには
　タールの光も清くなる
夏の空には何かある
いぢらしく思はせる何かがある
　焦げて図太い向日葵が
　田舎の駅には咲いてゐる
上手に子供を育ててゆく
母親に似て汽車の汽笛は鳴る
　山の近くを走るとき
山の近くを走りながら
母親に似て汽車の汽笛は鳴る
　夏の真昼の暑い時

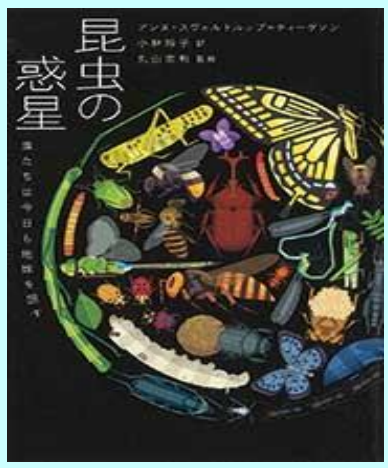
第69回 読んで世界を広げる、書いて世界をつくる。
青少年読書感想文全国コンクール
主催／公益社団法人 全国学校図書館協議会・毎日新聞社　後援／内閣府・文部科学省　協賛／サントリーホールディングス株式会社

『ラブカは静かに弓を持つ』
安壇美緒 著　集英社　1,760円

少年時代に心に傷を負い、深海魚の一種・ラブカのようにひっそり生きてきた青年が、上司から音楽教室への潜入調査を命じられる。身分を偽り通い始めた教室で師や仲間と出会い、チェロを奏でる歓びに目覚める。

『タガヤセ！日本
「農水省の白石さん」が
農業の魅力教えます』
白石優生 著　河出書房新社1,562円

農業ってこんなに面白い！若き官僚YouTuberとして多くのメディアにも登場する著者が、最新の農業から、実はスゴい日本の農作物のこと、さらには日本の農業の未来までを語る１冊。



『昆虫の惑星
虫たちは今日も地球を回す』
A=ティーゲソン 著 小林玲子 訳
辰巳出版　1,980円

虫が苦手という人は多いが、虫の世話になっていない人は地球に1人もいない。あなたの知らないところで黙々と仕事をしている昆虫たち。ノルウェーの女性昆虫学者が、奇妙で美しく風変わりな虫たちの世界へと誘う。